

ひょうご総合

学校園の石綿調査「不十分」

県内1431校園 古い記録や「不明」も

兵庫県保険医協会は2

日、県内全41市町の教育委員

会などを対象に行った校舎

へのアスベスト(石綿)使用

に関する調査結果を発表

した。飛散リスクの高い吹

き付け「あり」は3%だった

ものの、「なし」と答えた

公立学校園のうち、約8割

については調査時期が10年

以上前か、不明だった。有

資格者による調査は2割強

で、実態把握の不十分さが

明らかになった。

同協会が2020年10月

〜21年9月に調査し、計1

431校園について回答があ

った。アスベストを吹き付

けた「レベル1」は伊丹、西

宮、姫路市など計42校園

。体育館や階段の天井など

、ほとんどは対策済みだ

った。断熱材や保温材など

に使う「レベル2」は、14%

の200校園だ

た。一方、吹き付けがないと

したのは1332校園。ただ

し、調査時期を問うと、半

数近くが2010年以前の古

い調査で、約3割は時期が

不明だった。さらに、調査

者については、外部委託な

ごによる有資格者は24%

にとどまり、半数近くが資

格のない自治体職員や学

校関係者が実施。「不明」

も3割弱に上った。

調査を主導した同協会環

境・公害対策部で医師の上

田進久さん(72)は「問題意

識が低く、安全管理記録な

どもなく、教育委員会の責

任感は希薄さがぬぐえな

い。文部科学省が行った調

査では抜け穴だらけだった

ということ。全国「斉の正

確な再調査が必要だ」と訴

えた。(井川朋宏)

アスベスト

実態把握が不十分

学校施設等調査 行政は取り組みを



調査の報告をする上田氏（左）と（右から）西山、森岡の各氏＝2日、神戸市中央区

兵庫県保険医協会

兵庫県保険医協会（西山裕康理事長）は2日、県内学校施設（私学除く）のアスベスト実態のアンケート調査結果を発表し、使用状況の実態把握と安全管理が極めて不十分としました。

アンケート調査は、昨年10月から今年9月まで約1年かけ、県下全44教育委員会（事務組合含む）から回答を得ました。

環境・公書対策部員の上田進久医師が調査結果を報告。レベル1（吹き付けアスベス

ト）「なし」は1431施設中13332、93%、「あり」は42施設、3%でしたが、囲い込みなどほとんどが措置済みでした。

「なし」と回答した施設の調査年は、2010年以前が47%、不明29%と調査が継続されていませんでした。有資格者による調査は24%で、資格なし・不明は76%。調査方法では、「記録がない」や「前任者がいない」としていた「など不明が31%あり、調査の信ぴょう性を指摘しました。

上田氏は、調査の記録簿を全教育委員会が作っていないなどアスベストの実態把握が不十分で、半数以上の施設で有資格者による調査予定がなく、「正確な調査が必須。教育委

員会の認識が、自分たちが管轄している学校のアスベストの状態に、あまりにも頭になんか残念だ」と指摘。

そして、▽国費による全国一斉調査▽施設の耐用年限を伸ばす「長寿化構想」（総務省）にアスベスト除去を加える▽自治体職員への「調査者講習」や

「安全管理講習」など安全管理の体制と飛散防止策をとるよう提言しました。

森岡芳雄環境・公書対策部長は、県営住宅、市営住宅など学校以外にも行政による建築物が多数あり、「全体的に対策が遅れている」として、行政全体での取り組みを指摘しました。